

八戸市総合計画策定委員会 第2回専門部会「自治体経営戦略部会」 議事概要

日 時：平成27年2月18日（水） 14：10～15：50

場 所：八戸グランドホテル2階 グランドホール

出席委員：6名

藤田委員（部会長）、田頭委員（副部会長）、中川原委員、西川委員、橋本委員、平山委員

事務局：

政策推進課（上館主幹・成田主査）、中核市推進室（三浦副室長）、市民連携推進課（中里副参事・小幡主幹）、広報統計課（関向副参事・相模主査）、行政改革推進課（佐々木副参事）

（株）ケー・シー・エス 東北支社 霜鳥

次 第：

1 開会

2 部会長あいさつ

3 審議案件

審議 1. 第5章戦略プロジェクト（素案）について

4 その他

5 閉会

審議案件に関する主な意見：

**戦略5 自治体経営戦略**

**【戦略全体について】**

- ・特に意見なし。

**1. 協働のまちづくりプロジェクト**

**【プロジェクト全体や名称について】**

- ・特に意見なし。

**【現状と課題について】**

- ・特に意見なし。

**【展開する施策について】**

**■施策1：協働の仕組みづくりの推進**

- ・個々の事業を想定した協働の仕組みづくりが必要。
- ・協働によるまちづくりの普及啓発に向け、市民の意識向上を図るための研修会は重要であり、やり方の工夫が必要。
- ・特に、若い世代をどう取り込むかを含め、次世代へのバトンタッチを意識した研修が必要。
- ・協働によるまちづくりに向け、提案能力や課題抽出力の向上を図るような研修が必要。
- ・ボランティア活動に携わる方々の意識改革を図るためにも、1回ではなく継続することが大事であり、継続できるような市民参加型の研修が必要。
- ・現在、勤務されている方も退職された方も、市民活動に関わる動機づけが必要。

- ・様々な世代の意見を取り入れるためには、長い時間を拘束するのではなく、もっと気軽に誰でも参加できるような研修会やイベントにした方が良くはないか。
- ・協働の仕組みづくりはリーダーが大事。意識の高い人がリーダーとなって周囲を巻き込んでいく仕組みが必要。
- ・研修会のやり方を工夫して、時間をかけて継続する必要がある。
- ・個人情報の関係もあるが、もっと余計なお節介が必要なのではないか、そのような取組が必要。

## ■施策2：町内会等の振興

- ・プロジェクト指標のうち、町内会加入率に関しては、八戸市連合町内会連絡協議会で、昨年9月に町内会加入促進月間として1ヶ月間全市で町内会加入促進に取り組んである。
- ・市の窓口でも町内会加入を進めており、市の支援が必要。
- ・町内会活動を支えているのは高齢者。人口が減っていく中で、70歳、75歳でもやる気のある方に町内会活動を頑張ってもらいたい。

## 2. 行財政改革プロジェクト

### 【プロジェクト全体や名称について】

- ・特に意見なし。

### 【現状と課題について】

- ・特に意見なし。

### 【展開する施策について】

#### ■施策1：意識改革と組織体制強化

- ・派遣職員や臨時職員の研修も必要なのではないか。
- ・人事評価については、人間関係も含め人材を活かしきれていない場合もあり、人が人を評価するのは難しい。
- ・過小評価に対して精神的に落ち込む方もいると思うので、職員の良さを引き出せない場合もあるのではないか。

#### ■施策2：業務改善によるサービス向上

- ・市民レベルではサービス向上が大切。ワンストップサービスが望ましい。
- ・行政は縦割りになりがちなので、横の繋がりが弱い。横の繋がりができれば、ワンストップサービスに繋がるのではないか。
- ・特に福祉関係は、市役所来訪者の負担を軽減するためにもできれば一箇所で済むようにして欲しい。
- ・そのために、関係各課の垣根を超えた取組をやって欲しい。
- ・担当窓口が異なると、1日で用を足せない場合があるので、住民サービスの一環としてコンビニ活用は良い取組だと思う。
- ・窓口業務で法的にできる範囲が限定される場合もあるかもしれないが、制度的にできるものは改革・改善して欲しい。

### ■施策3：持続可能な財政運営と財産（資産）の適正管理

- ・特に意見なし。

### 3. 広域拠点・連携プロジェクト

#### 【プロジェクト全体や名称について】

- ・特に意見なし。

#### 【現状と課題について】

- ・特に意見なし。

#### 【展開する施策について】

### ■施策1：拠点機能の強化

- ・特に意見なし。

### ■施策2：移住・定住の促進

- ・八戸市での生活費が高いので、働くのは八戸市で暮らすのは周辺という方がいるので、八戸市で暮らせるようにするための施策が必要。
- ・近隣市町村から八戸市に働きに来る人も多いので、広域的に人材を確保することも重要。
- ・八戸市は高速交通体系の整備も進み、移動手段は整っている。遠くから移住してもすぐに戻れるから大丈夫。青森県の中では、雪が少ないことも売り。
- ・また、八戸市は大都会ではないが、都市機能が集積し、かつ、周辺には自然もあることが売り。八戸市の売り方として、豊かな自然もあることを意識した方が良い。
- ・どのような世代をターゲットにするかによって、売り込み方が変わるので、シティプロモーションは、どんな手段で、どんな内容を発信するのかを検討の上、地道な活動が必要。
- ・東京から戻ってきたのは、八戸の方が暮らしやすいということもあるが、都会に比べれば生活費が安いということが大きい。様々なニーズがあると思うので、訴え方の工夫が必要。
- ・市内外への情報発信は重要。わかりやすい情報発信とするための工夫が必要。

### ■施策3：広域連携の推進

- ・特に意見なし。

### その他意見

- ・特に意見なし。

### 【第2回結果概要】

- ・素案の構成・内容については特に問題ない。
- ・協働まちづくりプロジェクトの施策1（協働の仕組みづくりの推進）は、時間をかけて継続する必要がある。特に、リーダーの育成と誰でも気軽に参加できる仕組みづくりが必要。
- ・協働まちづくりプロジェクトの施策2（町内会等の振興）は、加入促進の取組が重要。

- ・行財政改革プロジェクトの施策1（意識改革と組織体制強化）は、人材を活かす取組が必要。
- ・行財政改革プロジェクトの施策2（業務改善によるサービス向上）は、コンビニ活用も含めて市民へのサービス向上が必要。
- ・広域拠点・連携プロジェクトの施策2（移住・定住の促進）は、ターゲット別に売り込み方、広報手段を検討して、地道に取り組む必要がある。